

令和7年度 大阪府立牧野高等学校 第3回学校運営協議会 議事録

日 時 令和8年1月23日(金) 15:00~16:30

場 所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

委員 松宮 新吾(会長)、有堀 正彦(副会長)、薙井 順子、森 隆裕、富江 則之

【欠席】尾崎 由美

校 長 伊藤 義孝

事務局 川村 大作、大道 香央利、中務 正和、清原 一輝

傍聴者 PTA役員2名

1. 開会 会長挨拶及び校長挨拶
2. 令和7年度学校評価(案)について・・・校長より説明
本年度の取組について説明のうえ、内容について承認
3. 令和8年度学校経営計画について・・・校長より説明

【委員からの意見】

- ・6月と11月に、牧野高校の授業見学に中学校の教員が15名以上の参加があった。また、牧野高校からも中学校の授業見学に来ていただいた。中学校教員としては、授業の形態等の違い等から新しい気付きを得ることもあり、また、進学した生徒たちがどのような環境で活動しているのかを知ることができるいい機会だったと思う。高校の先生も入学してくる生徒の様子を知るうえでは、いい機会になったと思う。今後も継続して欲しい。他にも、探究活動などを通して、連携を深めて、中学生と高校生との交流する機会を作ることもできると考えている。
- ・教員の負担が心配です。勤務時間の短縮などは、会議を授業内に入れたり、数を減らすなど、また、部活動の週末の勤務等について説明されていたが、現状ではどのような状況になっているのか。
 - ⇒(事務局より)土日(週休日)の部活動などは、活動時間に他の業務が無い場合は、できるだけ部活動指導の時間だけに勤務してもらうなど、勤務時間を縮減するように先生方をお願いしている。また、今年度は、月2回行っていた職員会議を月1回に変更し、そのほかの会議も時間割内にできるだけ収めるなど、放課後の時間を確保して、勤務時間の縮減に取り組んでいる。

⇒新しい内容等も組み込まれている。内容的には承認。

4. 学校教育自己診断について・・・校長より説明

【説明趣旨】

令和7年度学校評価の結果とあわせて内容を説明。教職員、生徒、保護者では乖離している部分があるので、今後検討が必要。生徒は結果が下降しているものが多く、教職員は多くの数値が向上している。

【委員からの意見】

・牧野高校の良さは、楽しくて活発な学校であると考えている。生徒の学校教育自己診断の結果で、「牧野高校は楽しい」の肯定的な回答の割合が、令和3年度入学生たちの数値が顕著に高く、それ以降下がってきている。この原因について精査していただきたい。また、令和3年度入学生が高い理由には何があるのか。

⇒(事務局より)令和3年度は新型コロナウイルスが流行していた時期と重複しており、学校でも授業や学校行事を実施するうえで、さまざまな工夫を凝らして実施していた。そのため、生徒たちも新しい内容に、好感を持っていたものと思われる。また、「牧野高校の授業はわかりやすい」の項目も下がってる。要因としては、授業内容として一定の力を維持するため、授業のレベルを下げることなく取り組んでいる結果ともいえる。このことで、授業理解が追い付かない場合には、内容が難しいと感じているのではないか。学校生活の主たる部分は授業のため、「授業がわからない」と感じることで、学校の楽しさが低下している可能性がある。今後精査していきたい。

・「授業が分かりやすい」と「授業の予習、復習(ができている)」という学習習慣について、連動させていくことが必要であると感じている。

・私学無償化の影響は大きい。私学は、無償化する前から、生徒を確保するために、さまざまな工夫や、個性的な取り組みをされてきた。また、今はSNS等で簡単に私学の様子もわかるので、公立と私学を比べてしまっている影響は出ていると感じる。

・生徒の学力が下がりつつある可能性があると言われていたが、全体的にみてどのような状況になっているのか知りたい。

⇒(事務局より)数学を例にすると、年々、計算する力が落ちてきていると感じる。計算が追いつかないため、考える時間も少なくなり、結果として苦手意識が生じている。

・中学生段階での分析結果だが、ICTの活用については、成績の芳しくない生徒ほど利用時間が長く、上手く活用できていない傾向がある。高校生段階であればICT活用の質を高め、思考を深めていくためのツールとしていくこともできると思うので、活用する方法を検討していく必要がある。

5. 授業アンケートの結果について・・・教頭より説明

【説明趣旨】

令和7年度第2回授業アンケートの結果と令和6年度から令和4年度までの結果を比較しているが、今年度も第1回が平均で3.51、第2回も3.52と非常に高い結果となっている。授業については、理解を得られている様子が分かる。

【委員からの意見】

- ・学校教育自己診断や授業アンケート等、複数のアンケート結果をどう分析していくかが課題である。
- ・理科や数学が比較的全体に比べ低い傾向にあるため、生徒たちの理数系科目に対する苦手意識がアンケート結果に顕著に出ているように感じる。

6. 職員超過勤務について・・・教頭より説明

【説明趣旨】

令和6年度と令和7年度12月までの職員超過勤務については、季節的に行事時には超過勤務が多くなっている。また、部活動主顧問にある教員も超過勤務が多い。全体的に超過勤務漸減に向けた取組を行い、平均時数は減少している。また、月100時間以上の教員も減少した。

7. その他（国際交流事業について）・・・校長より説明

【説明趣旨】

今年度3月に実施予定のオーストラリア海外短期留学では、派遣期間中に訪問先の学校と姉妹校締結を行う予定である。また、令和8年度以降も3月に海外短期留学を実施する予定。

8. 協議

【委員からの意見】

- ・私学無償化や少子化の影響を受け、入学者にさまざまな影響が出ているように思う。時代の流れとして仕方がない部分はあるが、牧野高校は楽しいという核となる部分は、維持して行ってほしい。
- ・部活動と勉学の両立は良い事ですが、どちらか片方だけが楽しいという生徒さんがいることも考えて欲しい。
- ・中学校でも高校と同じく、先生方の業務改善が大きな問題になっている。特に土日に部活動があると超過勤務が一定時間を超えてしまうことがある。部活動の無い小学校は中学校に比べて少し収まっている。超過勤務については、会議の精選など色々な対策をしているが、即効性のある取り組みはない。先生方のモチベーションやウェルビーイングの視点で仕事に対するやりがいをもってもらえるよう、声掛けなどを通

して励ましてる。高校でも中学と同じような課題があると感じた。

- ・保護者として、普段見えない学校の内部に関わったことで、より一層、牧野高校が充実し、子どもたちも、やっぱり牧野高校に来てよかったなという思いで3年間生活を続けているように思う。一番、うれしかったのは、教職員のアンケート結果で、ほぼ全てにおいて上向きになっているので、学校、または生徒に対しての意識が高く、満足しているというのがうれしかった。
- ・学校教育自己診断で生徒・保護者、教職員の結果に乖離が出てきてしまっている可能性があるということ。その因果関係を突き詰めるのは大変だが、そこを探っていくことを継続してやっていただくと、色々な要因が見えてくるのではないかな。

9. 連絡 次年度に関して

10. 閉式